

重点項目 評価 (4: 充分達成できた ~ 90% 3: おおむね達成できた ~ 70% 2: あまり達成できなかった ~ 50% 1: 達成できなかった 50%未満)

担当	具体的目標 PLAN	具体的な取り組み DO	具体的な評価基準 (具体的な達成目標) (数値目標など)	評価			
				中間評価		期末評価	
				CHECK	ACTION 次年度への課題や更新, 改革案	CHECK	ACTION 次年度への課題や更新, 改革案
国語科	常用漢字の読み書きができるようにする。	年間4回漢字テストを実施する。	4 合格者(75点以上)8割以上 3 6割以上 2 4割以上 1 4割未満	2	2、3年生の合格率が低いので引き上げを図りたい。	2	1、2年生の合格者は6割を超えているが、3年生は4割に達していないので、3年生の指導に力を注ぎたい。
地歴・公民科	社会問題に対する関心を喚起する。	時事問題をあつかった新聞の川柳を利用して意味を問う。	4 生徒が興味を持ち次々発言 3 そこそこ発言 2 生徒わからない 1 実施せず	3	自分の周囲で起こっている出来事への感度は良好である。現代の世界や日本のニュースの因果関係を考える方向にもってきたい。	3	答えを言える生徒はうれしそうで、小声でもはっきり答える。やはり新聞やテレビのニュースにちらっとでも関心をはらっているものの存在は他生徒の刺激になるようだ。
	視聴覚教材の探索、活用により理解を深める。	視覚、聴覚に訴えて楽しく分かりやすい授業をする。	4 年12回以上実行 3 8回以上実行 2 5回以上 1 5回以下	2	生徒にとって分かりやすく面白いビデオとそうでないものがあり苦慮している。視聴覚ライブラリーのみに頼らず、自分が録画したり借りてきたりして努力したい。	2	授業内容に対応したビデオ教材を工夫しているが、学習教材である限りドラマ等への反応のような訳にはいかない。授業数が多かったクラスでサラ金にかかわる映画をみせたが目を皿のようにして見ていた
数学科	基礎的計算力の定着	小テスト(年7~8回)の対策の時間を十分に確保する。	4 平均8以上(10点満点) 3 平均6以上 2 平均5以上 1 平均4以上	3	このまま、基礎力の定着をはかりたい。	3	概ね平均点は8点の前後であるが、分野によっては5点前後の分野がある。基礎力が身に付いていない生徒も多くその生徒の指導方法を今後検討したい。
理科	学習に対する内発的動機付けを高める。	発問を多くし、発表の機会を増やす。	4 毎時間3回以上 3 2回以上 2 1回以上 1 なし	4	よく発表できているが、個人的な偏りがみられるので、あまり発表できていない生徒が発表できるように配慮したい。	4	クラス全体としてはよく発表できた。ただ、発表回数が少ない者を優先して指名するようにしたが、それでも多い者と少ない者の差が大きかった。発表しない生徒への対応をどうするか今後の課題である。
体育科	集団行動での規律を高める	集合時の姿勢や、あいさつの声の大きさについて気をつける。	4 注意5回以内 3 注意10回以内 2 注意15回以内 4 注意20回以内	3	集合のしかたは改善された。特定の生徒が常時遅れたり服装整備が出来ていない。	3	集合時に整列がはやくできるようになった、今後は話を聞く態度と姿勢をどう定着していくかが課題である。
	服装の整備 見学者を減らす	服装不良者や見学が多い者についてはカウントし学期ごとに家庭連絡する	4 学期に5名以内 3 学期に10名以内 2 学期に15名以内 1 学期に20名以内	3	学期のはじめや連休明けに服装忘れが増える。あまり改善されていないので個別に注意する。	4	ほとんどの生徒が服装の整備が出来ている。次年度から2学年が同一の服装になるので、各生徒に自己管理をさせる方策を考える必要がある。
英語科	リスニング英語検定の受検促進を図り、合格者を増やす。	効果的に授業の中にリスニング活動を取り込めるように工夫する。放課後の課外活動も充実させる。	4 合格率 60% 3 合格率 40% 2 " 20% 1 " 20%未満	1	10月が実施予定日となっているので結果については評価できない。受験に向けての取り組みは例年通り授業を通じて指導を続けている。工業特有の少し難しい語彙の導入について工夫をしなければならぬと反省しながら考えているところである。	1	指導には、例年以上に時間を費やしたが、今年度の問題が急激に難易度が上がったため、合格者は昨年比で、3級合格者を中心として大きく減少した。協会から送られてきた概評や各高校のアンケートからも、全国的な状況が本校と同様であったことが読み取れる。今後、過去問を研究しながら、指導方法をもっと工夫し、リスニング力や工業についての英語に少しでも興味を持たせられるよう取り組んでいきたい。
	実用技能英語検定の受検促進を図り、合格者を増やす。	オーラルの授業を中心に、実用的な英語の学習を効果的に授業に取り入れる。	4 準2級、3級合格者5名以上 3 " 3名以上 2 " 2名以上 1 " 2名未満			1	第1回は受検希望者が10名に満たず実施できなかった。第2回の受検を勧めたい。
家庭科	家庭科に対する興味・関心を高める	全国的に注目されており、本県も力を入れている食育教育充実のため、調理実習を積極的に取り入れる	4 実習回数6回以上 3 5回以上 2 4回以上 1 3回未満	2	1学期に、炊飯(水炊き)してむすび等、炊飯(湯炊き)してむすびときゅうりのみ等、手打ちうどん、みたらし団子の4回実習を行った。災害時にも活かせる湯炊き法は、今年初めて取り入れたが、興味深く実習を行った。手打ちうどん、きゅうりの早切りテストは、例年通り意欲的に取り組んだ。	3	12月に、調理実習を2回(クッキー・雑煮)行った。シラバスでは、9月にも調理実習を行うようになっていたが、調理室は、2学期の残暑厳しい時期は、日も差し込み室温が非常に高くなる。食品衛生上の問題もあり中止した。その調理実習は、3学期に実施する予定である。
	少子化の現在、こども・子育てについての関心を喚起する	保育所との交流を充実させる	4 実習回数6回以上 3 4回以上 2 2回以上 1 1回未満	2	1学期は、3回保育所を訪問して、水遊びなどを一緒にして、子どもの実態を知り、楽しいひとときを過ごした。保育所の先生方のご指導により、子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶことができた。	3	2学期に、予定通り2回実施した。

機械科	資格取得の推進	課題研究や課外をとおして、機械加工技能士・電気工事士の育成を図る。	4 2・3級合格10名以上 3 6名以上 2 4名以上 1 4名以下	3	3級機械加工技能士7名合格(2年生4名、3年生3名)、従来通り地道に取り組んでいく。	3	3級機械加工技能士7名合格(2年生4名、3年生3名)、2級機械加工技能士1名合格(3年生1名) 従来通り地道に取り組んでいく。
	発明くふう展への出品	構想は一年を通じて行い、夏季休業日中に作品を完成させる。	4 全国入選 3 県内入賞 2 出品 1 出品せず	2	香川の発明くふう展に1点出品する予定。	3	第64回香川の発明くふう展で、「サッカーボール回収籠」が日本弁理士協会会長奨励賞を受賞
電気科	資格・検定取得の推進	工業特級・ジュニアマイスター顕彰制度の啓発を行い、卒業までに3以上の資格・検定の取得を目指す。	4 8割以上(達成率) 3 6割以上 2 4割以上 1 4割未満	1	電気科として重視している第2種電気工事士の技能試験の結果がまだ発表されていないし、第1種電気工事士は10月の筆記試験に向けて課外等で指導中であるため具体的に評価することができない。	3	第2種電気工事士については概ね満足できる結果であったが、第1種電気工事士の結果はまだ発表されていないが合格者は1名となりそうであり、やや不満が残る結果となった。
電子科	資格取得の推進	実習の時間や放課後を利用して技術指導に当たる。	生徒は、各学年で専門の資格に1つ以上合格する。	3	1年 パソコン利用技術検定3級32/35 2年 第2種電気工事士試験筆記26/32 実技20/26 パソコン利用技術検定2級5/18 情報技術検定2級1/2 初級システムミストラ 1/1 3年 第2種電気工事士試験筆記0/1 実技2/2 工事担任者試験 3/31合格(2科目8名、1科目15名) 初級システムミストラ 0/1		3年 第2種電気工事士試験筆記0/1 実技2/2 第1種電気工事士試験筆記0/6 工事担任者試験 31名中4名合格(2科目7名、1科目15名) 工事担任者試験は、部分合格があるので2回受験すれば合格者は増加したと思うが、費用の面などから2回の受験は難しく受験者は1名であった。結果は合格だった。

担当	具体的目標 PLAN	具体的な取り組み DO	具体的な評価基準 (具体的な達成目標)(数値目標など)	評価				
				中間評価		期末評価		
				CHECK	ACTION 次年度への課題や更新, 改革案	CHECK	ACTION 次年度への課題や更新, 改革案	
総務部	PTA係	各種会議・行事への参加者を一定以上にする。	4 8割以上 3 6割以上 2 4割以上 1 4割以下	4	理事会の出席率はほぼ100%に近いので、今後も維持できるよう努めたい。総会の出席率を高めるのが課題である。	4	PTA総会への参加者をさらに増やしたい。また、学校に対する要望等ができるだけ把握できるような工夫をしたい。	
	校史・同窓会係	将来、校史資料となるよう資料の収集を行う。	4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった	3	平成20年度は同窓会総会の年に当たるので、早めに資料の準備、整理に当たりたい。	4	具体的目標に対しての取り組みは十分にできた。県立高校再編計画の発表を受けての対応を、次年度への課題としたい。	
	食堂・厚生係	・より良質な安価な食品を提供する。 ・職員への周知、徹底をはかる。	・原材料の工夫。 ・生徒の嗜好と栄養バランス。 ・生徒が利用しやすくする。 ・掲示物の案内と配布。	4 生徒がほぼ毎日利用する 3 〃よく利用する 2 〃ときどき利用する 1 〃ほとんど利用しない	2	生徒の食堂利用者が少ないので、増やすための方策を検討したい。	3	1年生の利用数も増えつつある。さらに利用者を増やすために、生徒会によるメニュー等のアンケート調査の試案を作成中である。
教務部	現職教育係	教授法の向上・改善を図る。	4 参観回数 3回以上 3 〃 2回 2 〃 1回 1 〃 0回	1	研究授業や参観授業を行うシステムはあるが、積極的な周知ができておらずお互いの授業の見学や参観が行えていない。後半に向けて改善していきたい。	3	だいたい目標は達成できている。初任者の研究授業を参観できる環境にあったので回数が増えた考えられる。普段の授業を気軽に参観し合うことができる、職場の雰囲気作りが大切であると感じた。	
	インターシップ係	望ましい勤労観や職業観及び主体的進路選択の能力の育成	4 参考になった 80%以上 3 60%以上 2 40%以上 1 40%未満 (アンケート実施)		現在実施に向けて準備中であり評価できない。	3?	12月現在、受け入れ企業の確定作業中で93名の受け入れが確保できており、2年生98名全員がインターシップに参加できそうである。	
生徒指導部	生活指導係	本年度から実施する携帯電話校内ルールの徹底指導	校内での違反使用をなくする。 違反件数を学期ごとに集計し、評価する。	優	1年前に比べ、たいへん良くなった。ただ、違反件数のカウントが出来ていない。担当がカウントするのは煩わしいので、口頭で報告してもらうこととする。	3	本年度の具体的な目標については、かなり守れていると思うが、今後も、油断せず、携帯電話の校内外での利用マナーについて、度々指導する必要がある。	
	交通指導係	交通安全の意識を高める。	車体検査の実施とハブステップの取り締まりにより二人乗りを防止する。	良	ハブステップの撤去指導で二人乗りがなくなった。2学期も抜き打ちで車体検査を実施したい。	2	大きな事故はなかったが、一歩間違えると大事故になる自転車事故は数件発生した。まだまだ、交通安全に対する意識は低い。	
特別活動部	部活動係	部活動の活性化を図る。	部活変更などにも柔軟に取組み、入部率の向上を図る。	4 入部率 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	3	3年生の入部率は低かったが、2年生の入部率はますますである。1年生については、全員入部ではあるが、幽霊部員にならないような取組みが各部署で必要である。	3	入部率はますますだが、実質的な活動ができていない者が少なからずいるようである。全員入部という中で、どれだけ前向きに参加させられるかが問われているように思われる。
	生徒会係	執行部の活性化を図る。	執行部が中心になって、一般生徒も巻き込みながら、諸活動に取り組む。	4 よくできた 3 まあまあできた 2 すこしできた 1 ほとんどできなかった	2	決められた行事には全体として積極的に取り組んでいるが、自主的な取組みについては不十分である。	3	役員は積極的によく活動したが、一般生徒を巻き込むところはまだまだであった。

	ホーム ルーム 係	学級活動の 活性化を図 る。	各分掌の係と実施する内 容を相談し、生徒が自主 的にHR活動ができるよ うにする。	4 活性化した 3 実施した 2 計画した 1 何もしない	2	各分掌からの1学期に行いたい内容 を計画の中に入れ、実施した。おおむ ね計画通り実施できた。しかし、教員 主導による内容が多かった。2学期以 降は生徒の積極的活動ができるよう にしていきたい。	3	2学期は学校行事や進路指導関係など についての議題が多く、各クラスでの 活動が積極的に行われていたように思 える。
	ボラン ティア 係	ボランティア 精神を広 める。 活動に参加 する生徒を 増やす。	県内の各種ボランティア 活動の紹介・広報を行う。 生徒会の奉仕部長を中心 に各種ボランティア活動 に参加して、輪を拡げる。	4 日常的に多くの生徒が ボランティア活動を行う 3 年間数回活動に参加す る。 2 年間1～2回活動に参 加する。 1 活動がない	2	豊浜保育所の夕涼み会に、生徒会役員 を中心に参加した。金魚すくいや輪投 げ等の世話をした。礼儀正しく熱心に 取り組み、保育所の先生方に感謝され た。	2	観音寺市社会福祉協議会の依頼で、1 0月5日に、街頭で、赤い羽根共同募 金の募金活動に参加する予定であった が、豪雨のため、当日朝になって、急 遽中止となった。
進路 指導 部	就職係 3年団	求人開拓や 企業との連 携を密にし、 好ましい就 職環境づく りを目指す。	年間をとおり、求人開拓 や企業訪問をする。(来 校も含む)	4 100社以上 3 75社以上 2 50社以上 1 50社未満	4	県内求人はほぼピークを迎えている ようである。新たに工業高生に合った 県内企業の開拓が求められる。	4	来社実数110社、訪問社数40社の 計150社。三豊・観音寺の地元開拓 に努める必要を感じる。「150」社 以上を評価「4」に変えることを検討。
	HR担任 就職係	就職者全員 の一次応募 先内定を目 指す。	就職相談や面接指導・就 職模試を行うほか、応募 前職場見学や就職指導講 話などの機会をつくる。	4 一次応募決定90%以 上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	結果 待ち	全体的に現3年生は就職意識が前年 より低いように思われる中、就職希望 者が全体的に増えているようで、採用 倍率的に厳しい展開になりそうであ る。	3	一次合格率83%。中小であっても技 術開発指向の企業では、学力不足で不 合格になる例が多かった。来期はさら に学力面重視となると思うので、確実 な基礎学力(高1程度)をつける必要 がある。
	進学係 進学課 外担当 者 HR担 任	国公立大・高 専・私立難関 校合格を目 指す。	進学課外や個別指導など をとおり、学力試験や 面接試験の対策をする。	4 合格進学者数 2名以 上 3 1名 2 合格者なし 1 受験者なし	これ から	国立大等難関とされる大学への受験 が今年度は、5名の予定である。現在、 合格に向けて指導中である。	3	昨年に比べて、難関校へ挑戦した生徒 は増えた。今後も1・2年での進路意 識を高めて今年度の傾向を続けていき たい。
人権 同和 教育 部	人権問題に ついての啓 発活動を行 う。	LHR やたより、保護者版 たより等を通じて人権・ 同和問題への理解を深め る。	4 年間10回と保護者版 が発行できた 3 年間10回 2 7～9回 1 6回以下	3	月1回の職員会議にはたよりを発行 して行く予定である。春の保護者版は 発行したが、夏に発行できなかったの で冬には必ず出したい。	3	だよりは10回以上、保護者版たよ りは2回発行することができた。保護者 版を3回以上発行して、保護者啓発を さらに進めていきたい。	
保健 ・ 環 境 部	保健衛 生係	健康問題解 決に向けて、 幅広く情報 を収集し、発 信する。	保健便りや個別指導等を 通して、疾病箇所の治療 率向上を図る。 保健室利用生徒につい て、担任や各分掌担当者 と情報交換を密にする。	4 疾病治療率90%以上 3 80%以上 2 60%以上 1 60%未満	1	9月までの治療率は全体で45%。特 に歯科の治療率が悪いので、2学期は 個別に指導していく。	2	学級担任の協力による指導もあり徐々 に治療済者が増加してきた。来年度は より効果的な指導を考えたい。
教育 相 談 係		生徒が発す 様々なサイ ンを見逃さ ず対応し、 全ての生徒 が健康で充 実した学校 生活を送る ように支援 していく。	生徒指導とも連携を図り ながら、スクールカウ ンセラーの来校日を中心 に、定期的に情報交換・ 研修の会を持つようにす る。	4 カウンセラーの来校日 にはほとんど会を持てた。 3 カウンセラーの来校日 には大体会を持てた。 2 カウンセラーの来校日にあま り会が持てなかった。 1 カウンセラーの来校日にほと んど会が持てなかった。	3	早急に関係者だけで会を持つ必要が あるものについては、機会を逃すこと なく共通理解を図る会を持つことが できた。生徒の状況を、関係職員でよ く把握し、サインを出している生徒に ついては、大きく機会を外すことなく 対応できている。ただ、その生徒の数 も少なく、対応も現在、進行中の ものが多く、定期的な会という形のも のは時間が不足して取りにくい 状況である。	3	相談者の来校時間の関係もあり、定期 的に係りが顔を合わせることは難しか ったが、関係する職員との話し合いは こまめに持つことができた。学校全体 としては、落ち着いてきており、1学 期に比べると相談件数も減少してきい る。
教育 情 報 部	広報係	本校の教育 活動を保護 者に紹介す る	三豊工便りを8月を除き 毎月発行する	4 年間11回と特別号が 発行できた 3 年間11回 2 7～10回 1 6回以下	4	9月号まで毎月発行できた。	4	三豊工だよりを毎月発行することがで きた。常に改善意識を持って、このペ ースを維持していく。
	図書係	図書室の利 用促進を図 る	授業・LHRなどを通し て、書物にふれる機会を 増やし、積極的な利用の 促進を図る	4 図書室の利用 ほぼ毎 日 3 " 週に数回 2 " 月に数回 1 " ほとんど利用しな い	3	主にLHRや年休・出張等による自習 での利用が目立った。これら以外でも 調べ学習など教科の中で利用される ような図書室づくりに取り組んでい きたい。	3	図書室を利用する生徒が固定化されて いるので、新規の来室者を増やすため に生徒が興味を持ちやすい本を選定し 図書室におく。
	聴覚係	授業への視 聴覚機器の 利用を増や す。	全講座で、視聴覚機器を 年1回以上利用してもら う。	4 8割以上 3 6割以上 2 4割以上 1 4割以下	2	利用している講座に偏りがあり、まだ まだ活用されていない講座が多いと 思われる。今後、何らかの形での利用 をしてもらうように進めていきたい。	3	多くの講座で、利用してもらっている。 年間何回も利用している講座がある反 面、されてない講座もあるので、積極 的な利用を呼びかけていきたい。